

多様なモビリティと交通結節点の再定義 ～その駅前広場、20年後も使えますか？～

ある技術者は、駅前広場の設計をしながら考えました。「いまの交通主体(バス、タクシー、自家用車、自転車)を対象にしているの？だって、完成するのは10年以上先だよ。」

その頃には、自動運転タクシーが当たり前になり、自動車の自己保有という概念はずっと薄れているかもしれません。バスは自動運転によるデマンド型へ進化し、自転車はシェアリングが主流となって放置自転車は無くなっている可能性があります。電動キックボードのほかにも新たなマイクロモビリティが普及し、それらのシェアポートの空間が必須となるでしょう。カーブサイドの使われ方も劇的に変わるはず。交通の結節点という役割だけでなく、都市・地域の核として人が集う施設や空間を、変わりゆくモビリティ社会を見据えどのようにデザインすべきでしょうか。

都市の顔である「交通結節点を支える空間」がいま、大きな変革期を迎えています。過去の延長線上で設計するのではなく、自動運転技術が普及し多様なモビリティが浸透した未来から逆算して、いまその空間をどうつくるか。

本講習会では、学術、行政、実務の第一人者と共に、次世代の都市の顔となる交通結節点のあり方を議論してまいります。会員の方々ははじめ、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

■主催：一般社団法人 交通工学研究会 <https://www.jste.or.jp/> ■後援：警察庁・国土交通省(予定)

■開催日：2026年7月10日(金)

■会場：ちよだプラットフォームスクウェア会議室(東京都千代田区神田錦町3丁目21) ※オンライン同時配信

■参加費(消費税10%を含む)：交通工学研究会 正会員 8,250円 特別会員 8,800円 学生会員 3,850円 非会員 9,900円

■プログラム (時間や内容を変更する場合もございますのでご了承願います)

<p>1. 【基調講演】世界と日本の潮流から見る、次世代交通結節点のビジョン 海外の先進事例を引き合いに、交通結節点・駅前広場の進化系を紐解きます。モビリティマネジメントとハード整備がいかに融合し、持続可能な都市を支えるのか。グローバルな視点から、日本が進むべき方向性を提示します。</p>	<p>中村 文彦 放送大学 教養学部</p>	<p>10:30 ～ 11:20</p>
<p>2. 駅まち空間の計画とデザイン 駅とその周辺の市街地を計画・デザインする際の5原則とプロセスをまとめた「駅まちデザインの手引き」(2021年)の内容を解説した上で、四日市市の中心市街地にある全長約1.6km・幅員70mの広大な公共空間(戦災復興土地地区画整理事業で整備された中央通り)を交通結節点及び滞留空間として再整備し、合わせてスマートシティ事業も展開する「ニワミチよっかいち」の事例を紹介しします。</p>	<p>村山 顕人 東京大学</p>	<p>11:20 ～ 12:10</p>
昼休み		
<p>3. バスタプロジェクトの現在・これからーみち・えき・まちが一体となった新たな空間の創出 集約型公共交通ターミナル(バスタ)の整備・マネジメントを通じて、人中心の空間づくりや多様なモビリティとの連携など、MaaS や自動運転にも対応した未来空間の創出について、その推進策や取組事例を紹介しします。また、地域拠点としての「道の駅」やモビリティハブが交通結節点として期待される役割を紹介しします。</p>	<p>小山 健一 国土交通省 道路局 企画課</p>	<p>13:00 ～ 13:25</p>
<p>4. 「交通空白」解消に向けた取組：「地域輸送資源のフル活用」、「共同化・協業化」、「データ活用」の推進 「交通空白」解消に向け、「地域の足」「観光の足」を確保するための、「地域輸送資源のフル活用」、「共同化・協業化」、「モビリティデータの活用」の推進に係る取組について、国による総合的な支援施策とともに紹介しします。</p>	<p>星 明彦 国土交通省 総合政策局 モビリティサービス推進課</p>	<p>13:25 ～ 13:50</p>
<p>5. 駅前広場の役割とその進化 駅前広場は交通結節点である駅の機能をスムーズにすると同時に、都市における広場機能も期待されています。人が集い様々な活動が可能である広場や、その関連施設である商業や公共施設などをどのようにデザインし、相乗効果を高めていくかを展望しします。</p>	<p>高濱 康亘 国土交通省 都市局 街路交通施設課</p>	<p>13:50 ～ 14:15</p>
<p>6. 移動が変われば世界が変わる～現場からの知見を通して 新たな移動価値を提供する交通結節点の新概念を紹介し、果敢に挑戦する先行事例を通じて、その苦労と成果を共有しします。実務的な観点から、新たなモビリティサービス到来に備えた交通結節点の勘所について、現場での実践者の立場からお話します。</p>	<p>牧村 和彦 一般財団法人 計量計画 研究所</p>	<p>14:15 ～ 15:05</p>
休憩		
<p>7. パネルディスカッション 参加者からの質問をもとに討議</p>	<p>10年後の都市を支える交通結節点のグランドデザイン ファシリテーター：中村 文彦 パネリスト：講演登壇者の皆さま(予定)</p>	<p>15:20 ～ 16:35</p>

■参加登録について:

- ・当会ウェブサイト(<https://www.jste.or.jp/events/>)よりお申込みください。
 - ・本講習会に参加するには、参加登録が必要となりますので、事前に参加登録をお済ませください。
 - ・申込みフォームから参加者情報の送信、参加費納入の両方の手続きが済むと、参加登録が完了となります。
 - ・振込による入金期限：2026年7月1日(水)。以降はクレジット決済での申し込みのみ受け付けます。
 - ・参加登録(入金)が完了した方には、参加方法や、資料入手方法等のご案内を参加登録されたメールアドレス宛に配信します。
- 参加申込や支払いに関するお問合せは、mail：maf-jste.event@mynavi.jp までお願いします。



一般社団法人 交通工学研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-23 錦町 MKビル 5階

※開催に関する緊急の連絡は <https://www.jste.or.jp/> の新着情報にてお知らせいたします。